

2021 年度第 2 四半期 決算報告

説明要旨

2021 年 10月29日

## 【説明会資料】

<https://www.zeon.co.jp/ir/financial/bs/pdf/211029.pdf>

## 【説明内容】 (取締役執行役員 松浦 一慶)

## p. 2 2021 年度 Q2 (第 2 四半期) 総括とセグメントの概況

エラストマー素材、高機能材料とも総じて堅調に推移した。Q2 連結業績は前年同期に対し増収増益、対前期では増収減益となった。なお、新型コロナウイルスによる調達及び生産への影響はない。

エラストマー素材の概況は、主原料価格上昇に伴って販売単価も上昇し、売上高は増加するも営業利益は減少した。Q1 に引き続きコンテナ不足の影響で欧米向け中心に一部で出荷が遅れが発生している。

高機能材料の概況は、総じて出荷量増で売上高は増加するも、光学フィルムの試作関連費用等の発生により営業利益は減少。電池材料は半導体不足、中国の電力制限等の影響で一服感があった。

## p. 3 2021 年度 Q2 の事業環境 (為替・主原料推移)

為替は、US ドル、ユーロともに前年同期に対して円安、前期比では大きな変化はなく推移した。

国産ナフサ価格については、本日の日経の報道にもあったが、昨年度来上昇が続いている。ナフサは前年同期比で約 2 倍。アジアブタジエンは約 3 倍弱に上昇している。ブタジエンは Q1 と Q2 の比較では+13%の上昇。

## p. 5 2021 年度 Q2 業績サマリー (全体)

売上高 919 億円、対前年同期 240 億円の増収、対前期 47 億円増収

営業利益 111 億円、対前年同期 55 億円の増益、対前期 28 億円減益

経常利益 117 億円、対前年同期 59 億円の増益

当期純利益 83 億円、対前年同期 37 億円増益

四半期単位で売上高は過去最高、半期ベースでは、売上高・営業利益ともに過去最高の実績となったことを申し添える。

## p. 6 2021 年度上期 業績サマリー (セグメント別)

売上高は、エラストマー素材 989 億円、高機能材料 541 億円と両セグメントともに対前年同期比で増加した結果、417 億円の増収であった。今年 7 月 30 日に修正させていただいた売上高予想との差をお示ししているが、売上高は+1%上回った。

営業利益は、エラストマー素材 108 億円、高機能材料 140 億円、両セグメントともに前年同期比で増加し、150 億円の増益となり、修正の予想値とほぼ同額で着地した。

## p. 8 エラストマー素材 概況

ここから 3 ページでエラストマー素材の概況についてご報告する。

左は国産ナフサ価格とエラストマー素材の売上高の推移をお示ししたもの。右は 20 年度 Q2 の合成ゴム出荷量を 100 とした場合の出荷量の推移を四半期毎の指数を棒グラフでお示ししている。

Q2 の需要は堅調だったものの、欧米向けを中心にコンテナがタイトで出荷が遅れた影響もあり、合成ゴムの出荷量は Q1 並みの出荷量であった。

#### p. 9 エラストマー素材 P/L

出荷量については、前ページ同様に 20 年度 2Q を 100 とした指数をお示している。

合成ゴム Q1 と Q2 は、ほぼ横ばい。ラテックスは、Q2 は若干数量が落ちている状況。化成品は定期検査の影響による供給量減、コンテナ不足で減少した影響が相まって出荷量減となった。

売上高は 502 億円で、前期比 15 億円増加した。化成品は数量が減じたものの価格改定が進み、売上高は増加。ラテックスは手袋向け需要の緩和により価格の鎮静化を受け、前期比で減少している。

#### p. 10 エラストマー素材 営業利益差異 (QoQ)

こちらは、エラストマー素材の Q1 と Q2 の営業利益の差を要因別に分析したものである。

主原料価格の連動フォーミュラ、価格改定により価格差 25 億円程良化した。原料価格の上昇等により 33 億円の悪化となり、営業利益は対前期比で 13 億円程減少した。

#### p. 11 エラストマー素材事業 要因別 営業利益差異 (YoY、上期比較)

こちらは上期対上期の比較であるが、対前年度上期との比較では、出荷量が増え 38 億円の良化、販売価格の改定等で 176 億円良化した。一方で悪化要因としては、原料価格上昇で 99 億円、海上運賃、包装材料費の増加により販管費差が 30 億円悪化した。全て足し込み、対前年度上期と比べ 100 億円程営業利益が増加している。

#### p. 13 高機能材料の P/L

ここから 5 ページで高機能材料セグメントについてご説明する。

高機能材料の P/L については、売上高は高機能樹脂、高機能ケミカルともに堅調に推移し、全体で売上高は前年同期比で 47 億円、前期比では 38 億円増加した。営業利益は光学フィルムの試作関連費用等が当期発生したため、前期比で 15 億円減少しているが、前年同期比では 13 億円の増加という結果となった。

#### p. 14 高機能材料 営業利益差異 (QoQ)

高機能樹脂を中心に出荷が増えたことにより 13 億円の良化要因、原価の上昇が 9 億円、光学フィルムを中心とした試作品関連費用の発生等で 17 億円程の悪化要因となり、全て足し込み、前期比で 15 億円営業利益は悪化している。

#### p. 15 高機能材料 営業利益差異 (YoY、上期比較)

電池材料・高機能樹脂の出荷量増により 31 億円の良化、出荷量増に伴う生産量増による固定費減が原価差に効き、17 億円良化。締めて営業利益は 43 億円増加した。

#### p. 16 電池材料の状況 (出荷量)

ここからスライド 3 枚で、高機能材料事業の主要 SBU 電池材料、光学樹脂、光学フィルムの出荷量についてご報告する。

電池材料については、EV 向けは対前年同期 182%、全体でも 147%、堅調に推移している。一方で、対前期比で見ると、EV 向けは 86%と、やや一服感が見られた。こちらは半導体等の材料不足の影響で一時的な現象と見ており、Q3 以降は復調する見込みである。

p. 17 光学樹脂の状況（出荷量）

光学樹脂の状況は、対前年同期は全体で 117%と堅調。前期比では医療が 82%と数字が落ち込んでいるものの、これは当期が出荷の端境期に当たるものであり、需要は堅調。

p. 18 光学フィルムの状況（出荷量）

前年同期比では、全体で 104%、前期比においても 102%。中でも、前期比で中小型向けが 111%と堅調に推移している状況である。

p. 20 B/S 概要

ここからは、財務諸表、通期の業績予想についてご報告させていただく。

貸借対照表の概要、総資産は 409 億円増加し 4,897 億円となり、純資産については 190 億円増加した。

p. 21 C/F 概要

営業キャッシュフローは、前年同期と比較し 10 億円程増加して 243 億円となった。その結果、フリーキャッシュフローが 122 億円、トータルキャッシュフローが 94 億円となった。

p. 22 2021 年度通期業績予想

2021 年度通期業績予想は、売上高は 3,330 億円、営業利益は 420 億円と予想する。一方、下期の売上高及び営業利益については、先程よりご説明させていただいている通り、半導体等の材料不足による当社主要事業の停滞、あるいは主要原材料の価格動向、長引くコンテナ不足の影響等、事業環境が極めて不透明であり、今後精査をする考えである。本日の段階では 7 月 30 日の予想値を変えていない。

p. 23 2021 年度配当金予想

中間配当は+1 円の 13 円、期末配当については、7 月 30 日付の予想値 12 円を据え置きとさせていただきたい。

以上